



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2011.2

No. 322

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



三室探鳥会は黄色のリボンで

楠見邦博（さいたま市）

1984年5月20日、第1回三室地区定例探鳥会が開催されました。以来、さいたま市立浦和博物館を起点に、見沼たんぼ、見沼代用水西縁、斜面林、中央を流れる芝川を主な鳥地として鳥見を楽しんで来ました。天気にも恵まれれば、今月の20日で300回を迎えます。

今月号は、この300回記念探鳥会を機会に三室探鳥会への想いをお届けします。

● はじめに

「三室探鳥会はなぜ参加者が多いのですか」とよく問われます。皆さんには「リーダーが親切だから」と言われます。そうではありません。参加される人たちの心が優しいからです。いつもそう思っています。そして見沼たんぼの変化する四季折々の風景が、鳥たちと共に参加者の心を引きつけるからではないかと思っています。



コースを説明する筆者(右端)

● なぜ参加者が多く、楽しいのだろう

① 起点となる博物館(後援)の方々が笑顔で応援してくれる。

第1回から5年間の共催期間を含めて嬉しいことです。鳥合わせの資料、参加者名簿の提供があり、博物館報や研究紀要に探鳥会の記録を残してくれています。暑い夏は冷房の、雨や寒さの時は暖房の効いた部屋での鳥合わせが助かっています。探鳥会が博物館と一体となって開催されていることを実感します。

② 参加者が老若男女で、孫とも語り合うような探鳥会である。

昨年は1年間皆勤の小学生も出現。タカ類を発見する視力は老眼の私ではかなわない。小学生は見つけるのが実に早い。学校で「鳥博士」と言われている少年がたくましい。

③ 三室探鳥会は鳥を初めて見る参加者が多い。

常に50名から70名程の参加者がいて、その中には必ず初心者がいます。初心者は不安です。そこで黄色のリボンの登場です。昔、さいたま市から依頼を受けた探鳥会と定例探鳥会と一緒に開催したことがありました。区別するために、フェルトの端切れと安全ピンを購入して作成。以降、定例探鳥会で「親切にして欲しい人は」と呼びか

けて、特に初心者にかけていただいています。リボンは少しくたびれてきましたが、リボンの心は参加者に浸透。全国の探鳥会へも伝わりつつあると聞いています。探鳥会後に回収しますが、「親切にしてくれました」の言葉がリーダーに喜びを与えています。

④ さいたま市の中心部から近く、交通の便が良い。

「いつも親切に北浦和駅に出迎えられる」と感謝されています。通称「ひげのおじさん」は、毎回、参加者に会おうのが楽しみだと言います。雨で中止の時も駅前です。以前、「雨で中止の時は、迎えも中止してもいいのではないかと提案したことがありました。その時、ひげのおじさんは「1人でも参加者が来られたら戸惑うから」と。ひげのおじさんが所要の時は、ひげのない(?) Mさん、Fさんが出迎えます。

⑤ コースを季節や天候、出現する鳥の状況によって、適切に変更するので、変化があって楽しい。

地元のリーダーであるNさんやFさんたちは、日頃から鳥の出現を調べています。そして当日の朝は、KさんやFさんも加わって直前の下見をして的確なコースを決定

します。

また、見沼たんぼでメインリーダーをしている私には、各リーダーや会員の方々から様々な「見沼たんぼの情報」が入ってきます。探鳥会の話題として保有し、いつでも参加者に提供できるようにしています。

⑥ 「風景の中にいる鳥」を楽しむことをモットーにしている。

鳥だけを見ないで、季節の花々、木々の芽吹きや紅葉、水田の緑の風景、刈り入れの稲穂を見ながら鳥を楽しんでいます。空を行く雲や青空を見上げて、オオタカの飛翔を楽しんでいます。

⑦ 参加者同士の交流が楽しい。

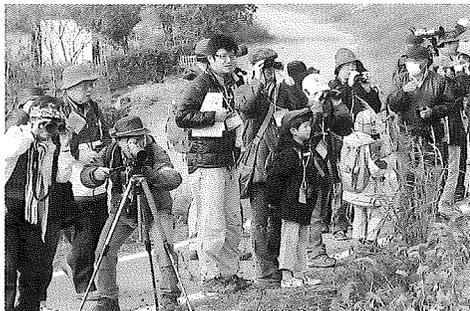
病気から回復して久しぶりに参加した人にはあちこちから励ましの声がかかります。昨年は孤独死がクローズアップされ、年末には「孤族」という新語が新聞に掲載されました。鳥を通してコミュニケーションが取れることが本当に嬉しい。ひと月に1回ですが、鳥を通じた友人との会話がいつも元気を与えてくれます。

⑧ 見沼たんぼでは、野菜等に触れ、出会う人には感謝し、挨拶する。

家庭菜園のご夫婦が新鮮な野菜を販売しています。野菜畑で臨時休憩。野菜を買っている間に、オオタカやタヒバリが出現します。野菜や鳥も見沼たんぼからの恩恵をいただいています。

⑨ 珍鳥が出る時もある。

今までの出現鳥は約120種ですが、コハクチョウ、ミサゴは上空を、ノハラツグミは見沼代用水東縁、サンコウチョウ、キクイタダキは斜面林の屋敷林に出現しました。でも、普通の鳥を楽しく見るのが三室の1番の良さです。



老若男女、様々な人が集まる

⑩ 12月は「三室探鳥会に出て年越しをしよう」の気持で、多くの方が参加する。

にぎやかな師走の探鳥会で、今までにお亡くなりになった方々のことを思い出すこともあります。いつもチョコレートをくださったOさん、地面に座りこみ土で汚れたズボンを気にせずに大声で笑っていたBさん、俳句を詠んで俳画に鳥を描いていたダンディなSさん。カワセミの飛ぶ川面を眺めながら、お世話になった人々を想う。三室の年の暮れ、優しい人々の気持が溢れています。

● 三室探鳥会が果たしてきたこと

- ① 鳥を通して自然を感じ知ることで、自然を大切にすることが育っています。
- ② 鳥の仲間が出来て心が穏やかになり、生活が豊かになりました。
- ③ 博物館で親子探鳥会を開催、緑区の環境講演会に委員として参加、教育委員会から依頼の先生方への講義、中学校での環境教育の指導等々を行ないました。
- ④ 日本野鳥の会埼玉は「見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク」に加盟し、HPの運営、クリーン大作戦、写真コンクールに参加しています。特にクリーン大作戦は臨時三室探鳥会を開催して、探鳥会のお礼として清掃をしています。今年も3月に行なう予定です（多くの方の参加をお待ちしています）。
- ⑤ 新しいリーダーもここで成長して、他の探鳥会のリーダーとなっています。

● おわりに

三室探鳥会への様々な想いを書きました。しかし、言葉ではないのですね。博物館の坂を下って見沼たんぼの空気を吸うと、人それぞれがいろいろな想いを抱きながら探鳥会に来ていたとしても、日常のひとときを忘れて元気になるのです。

これからも、参加者、博物館、ご支援いただく関係者のみなさまの協力を得ながら、探鳥会を続けていきます。いつも黄色いリボンを付けた初心者的心を原点にして、リーダー全員で頑張っていきます。

(写真：編集部)

「埼玉県内年間鳥見ランキング 2010」参加のご案内

普及部長 橋口長和

日本野鳥の会埼玉の鳥見ランキングは支部の時代から引き続き、今回で第9回目を迎えます。2010年の鳥見総決算として、「探鳥会参加数ランキング」と「観察鳥種数ランキング」に参加しませんか。

2010年1月1日から12月31日までの間に、埼玉県内で観察した鳥種の数および探鳥会参加回数によりランキングを決定します。観察数の多少に関わらず皆様のご参加をお待ちしております。

1. 埼玉県内観察鳥種数ランキング

- ・埼玉県内での観察であること。県境の河川敷等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可とします。
- ・観察鳥種は当会が制定している『埼玉県内鳥類リスト』に記載されているものとし、新種に関しては、当会野鳥記録委員会が認定した時点で加算します。
- ・鳥種名、観察月日、観察場所の3項目を記載したリストを送ってください。

2. 探鳥会参加回数ランキング

- ・日本野鳥の会埼玉主催の探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも1回1ポイント（宿泊探鳥会も1ポイント）とします。
- ・探鳥会名、実施月日の2項目を記載してリストを送ってください。

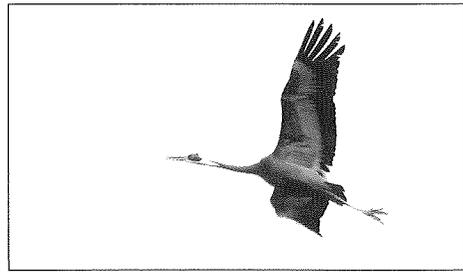
3. ランキングの参加方法

- ・日本野鳥の会埼玉の会員に限ります。良心の元に自己申告してください。
- ・リストの形式は自由です。お名前とご住所、電話番号を記載して、電子メールで送信、または下記住所に郵送してください。
- ・締切 2011年2月15日（消印有効）

e-mail:

郵送先: 〒

橋口長和



マナヅル(鹿児島県出水で、馬場友里恵)

はみ出し行事案内

群馬県・小根山森林公園探鳥会

期日：2月13日(日)

集合：午前10時、JR信越本線横川駅前。
交通：JR高崎線大宮7:51→高崎でJR信越本線乗り換え9:13発にて終点下車。

解散：午後3時半頃、横川駅にて。

担当：入山、玉井、浅見、野口(修)、間正、藤澤、星

見どころ：昨年は36種。ルリビタキ、ミヤマホオジロなどをじっくり観察できました。今年は何が姿を見せてくれるかな。

ご注意：駅から公園、園内の往復で約7.5km歩きます。高低差、積雪や凍結路面もあり健脚向きです。昼食は持参してください(現地での釜飯の出前もできます)。

群馬県・裏妙義探鳥会

期日：2月27日(日)

集合：午前8時40分、JR信越本線横川駅前。
交通：JR高崎線大宮6:29→高崎でJR信越本線7:59発に乗り換えて終点下車。

解散：午後1時半頃、現地(裏妙義国民宿舎)にて。

担当：入山、玉井、浅見、榎本(秀)、星、藤澤

見どころ：横川駅から国民宿舎まで登りのコース。片道約2時間の所を小鳥類やオシドリ、ヤマセミなどを探しながら約3時間かけて登ります。あれ、上空に何かが飛んでいる……。

ご注意：①小雨の場合は中止。②駅から往復で約10kmあります。高低差、積雪や凍結路面もあり健脚向きです。昼食は持参してください。



野鳥情報

坂戸市伊豆の山町 ◇10月23日午前10時頃から11時頃までの間、自宅庭で水浴びや羽繕いをする小鳥を、弟が観察したとのこと。頭部、翼は黒く、胸があざやかな黄色からオレンジ色で腹に白い部分はなく、腰は黄色。後ろ姿では頭部と翼の4箇所白斑が目立ち、図鑑を見たところではマミジロキビタキ♂のように見えますと言っています(黒田清恵)。(野鳥記録委員会註：頭部の白斑とは眉斑のことでしょうか。詳細な観察記録を拝見して、マミジロキビタキ♂である可能性は考えられます。同種であれば1980年6月所沢市での観察情報、2001年5月28日さいたま市桜区秋ヶ瀬公園で写真撮影された確認記録に次ぐ記録になるのですが、写真がないのが残念です。)

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇11月4日、ツグミ20羽ほどの飛翔。2、3羽は樹冠にとまる。ジョウビタキ♂2羽♀1羽、アカゲラ♀1羽、アリスイの声、シメ、オオタカ若鳥、ヒドリガモ30羽など。11月5日、ヤマガラの声、エナガ10羽ほど、ツグミ、アオジ、オオジュリン1羽、クイナとアリスイの声。マヒワらしき声が上空通過。アカゲラ♀1羽(♂もいるらしい)、ジョウビタキ♀3羽のバトル。やけに白っぽいキビタキ♀1羽(鈴木紀雄)。◇11月16日、アカゲラ、シロハラ。ヒドリガモ群れ中にコガモ3羽(菊川和男)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園付近 ◇11月7日、クイナ1羽。11月8日、ベニマシコ2羽。ともに今季初認(海老原美夫)。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇11月10日午前8時～10時、水路排水門前右岸の低木と草むらの斜面地で、紅い鳥ベニマシコ♂2羽♀1羽、今季初認。他にジョウビタキ、ツグミ、カシラダカ、アオジ、シメと姿が見られ、いよいよ浅羽ビオトープは冬鳥勢ぞろい(増尾隆)。

吉見町八丁湖公園 ◇11月10日、工事中の池

の干潟にイカルチドリ5羽がじっとしていた。その傍をハクセキレイとセグロセキレイがせわしなく採餌。水辺ではマガモ100羽土、ダイサギ2羽、アオサギ1羽、カワウ3羽。林の中ではガビチョウとシジュウカラとヤマガラが鳴き、ノスリが舞った(長嶋宏之)。

蓮田市西城沼公園 ◇11月12日、カケス3羽、コナラ林で飛び回る。オオタカが屋敷林に飛び込み、オナガ10羽が驚いて飛び出した。ジョウビタキの声が一段と大きく聞こえる。コジュケイの声、ウグイスの地鳴き。メジロが5～10羽の群れを作るようになった。11月18日、シジュウカラ10羽土とコゲラ2羽とエナガ5羽の混群が採食しながらクヌギの枝を枝移り。エナガはすっかり居ついたようだ。ツグミ8羽が電線に並んでいた。ハシボソガラスの番が2組になってしまった。ハシブトガラスは10羽土だが、しばしば目につくようになった(長嶋宏之)。

北本市北本自然観察公園 ◇11月13日、工事が終了した高尾の池にマガモ、コガモ、カルガモが戻っていた。カワセミも水辺を鳴きながら行ったり来たり。林の中でシロハラが鳴き、ジョウビタキがアシ原に出て存在をアピール。シジュウカラとヤマガラとコゲラの混群は桜の枝間をチョロチョロ。シメと数羽のツグミが梢に止まる。ガビチョウは相変わらず賑やかだ。ノスリがゆつたりと桜堤上空を通過した(長嶋宏之)。

羽生市羽生水郷公園 ◇11月16日、ジョウビタキ♂が道案内。足元の草原からホオジロ、カシラダカの群れが飛び上がり、背の高い草の天辺でモズが高鳴き、チョウゲンボウが街灯の傘に止まっていた。チョウゲンボウは草原にヒラリと降り、また傘に戻った。何か獲物を持っていた。トビが羨ましうに周囲を旋回。その他、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、カワセミ、オオバン、ツグミなど34種を堪能(長嶋宏之)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇11月21日、水面に張り出た柳の枝に、葉っぱだと思っていたら、キセキレイだった。浮島に移動してから、ハクセキレイ2羽と追いかけっこしていた。

ここでのキセキレイは珍しい。ひと際白く目立つ鳥がいた。セグロカモメ。ここで見るのは久しぶりだ。ヨシガモ♂4羽♀1羽、キンクロハジロ、ホシハジロ、ヒドリガモ、オオバン、カワセミなど(長嶋宏之)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇11月25日、ホオアカ5羽+、B区で長期滞在中。11月27日、B区東南隅付近でシラコバト1羽(海老原美夫)。

さいたま市北区大宮市民の森 ◇12月1日午前9時5分、10数羽のシジュウカラの群れにメジロ、コゲラが加わった混群を観察。近くの桜の木にコゲラの穴(編集部註: 罅用と思われる)を発見(大井智弘)。

坂戸市高麗川 ◇12月5日午前中、多和目橋から100mほど上流で、ヨシガモ♂1羽♀1羽。高麗川では初記録と思う。ヒドリガモ♂1羽♀1羽。これも当地では珍しい。城山橋上流右岸河川敷(探鳥会で鳥合わせをする所)で、流れに差した木の枝にカワセミ♂1羽。水中にダイビングして小魚を捕った。上空をハイタカが旋回し、ノスリが対岸の城山方向に飛んだ(増尾隆)。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇12月5日、民家園周辺探鳥会の後、ちょっと寄り道。カンムリカイツブリ2羽。カイツブリの「ケレレレ…」という声を聞く。キジ♂1羽、草むらから飛び出し、芝川の本流の方へ。チュウヒ2羽がアシ原を飛び回り、ミニ渡良瀬遊水地の雰囲気。アシ原の奥でベニマシコの声したが、姿を現さなかった(小林洋一、小林みどり)。

北本市北本自然観察公園 ◇12月5日、ノスリが悠然と頭上を通過、オオタカが林に飛び込んだ。ルリビタキ♀1羽、キジ♂1羽が採餌。カワセミが池に飛び込んだ。ウグイス、ヤマガラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、ジョウビタキ、メジロ、シジュウカラ、シメ、ツグミなど(長嶋宏之)。

蓮田市西城沼公園 ◇12月10日、シメ6羽日当たりの良い屋敷林で日向ぼっこ。エナガ3羽が枝移り。コジュケイが大きな声でさえずった。ジョウビタキ♂1羽が垣根の上で尾を振っていた。ツグミ16羽、今季は

ツグミが多い(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区染谷 ◇12月11日、午前11時45分、冬期で閉園中の染谷花しょうぶ園入り口付近の木にルリビタキ♂1羽。しばらく姿を見せてくれた。周辺の高木でシジュウカラ、メジロ、コゲラ、エナガの混群を観察(大井智弘)。

鴻巣市馬室小学校付近 ◇12月12日、上空でカラスの群れが旋回しているのを発見。以前は不気味に感じて、見向きもしなかったが、「たくさんカラスが旋回していたらミヤマガラスかもしれない」という話を思い出し、必死に愛車のペダルをこぐ。カラスが一斉に飛び立つ。ダメかと思ったが、まだ近くの農耕地で食事の残カラスが残っていた。愛用の双眼鏡で合わせると嘴の根元がグレーであることを確認! やっぱりミヤマガラスでした。我が家の近くで確認できてラッキー(栗原喜芳)。

坂戸市西坂戸調整池 ◇12月16日、セグロセキレイ約50羽、午後4時頃から4時40分にかけてつぎつぎと飛来し、調整池周縁の電線に止まる。4時40分過ぎ、池のヨシの中へ一斉に降下、罅入り。アシの中で、あちこち鳴きながら飛び回るも、4時45分動きがなくなり、静まる。同時刻、池の土手から水面上に張り出した木の枝に、上空からきりもみ降下して、つぎつぎとコサギ13羽が止まる。翌早朝6時に見に行くと、セグロセキレイはもう飛び立った後で、午前7時10分、コサギ13羽が飛び立ち、上空で逆V字型になって、南の方向に消えて行った(増尾隆)。

さいたま市見沼区深作遊水地 ◇12月18日オカヨシガモ、♂1羽♀5羽の群れと♂6羽♀2羽の群れが、それぞれ離れた場所にいた。もっと男子女子バランスよくまざればいいのに…。ハシビロガモ♂エクリプス1羽(小林洋一、小林みどり)。

表紙の写真

ツル目クイナ科クイナ属クイナ

蟹瀬武男(さいたま市)



行事案内



アリスイ (阿部義裕)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。**持ち物**：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。**解散時刻**：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月5日(土)

集合：午前8時45分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越7:43発、寄居8:10発。
担当：後藤、大澤、青山、新井(巖)、中村(豊)、千島、鶴飼

見どころ：厳寒の季節、冬鳥たちはどの様に過ごしているのでしょうか。あとひと月もすれば越冬地を旅立ちます。体力をつけるために餌を探して飛び回っていることでしょう。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月6日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)、野口(修)、大井

見どころ：昨年の暮れには、調節池の周辺で猛禽類6種が観察されています。冬鳥たちを探しながら、池の上空にも注目しましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月6日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口「住まいの情報館」前(前と同じバス停)から、北里メディカルセンター病院行きバス8:31発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野(安)、山野、長谷川、吉原(早)、相原(修)、相原(友)

見どころ：風の冷たい季節ですが、石戸の森は風を防いで意外と暖かです。陽だまりに、赤い鳥、青い鳥、黄色い鳥などを探しながら歩きます。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月6日(日)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き8:59発バスで終点下車。

担当：石光、藤掛、久保田、山本(真)、小林(ま)、星、水谷

見どころ：林、草地、池、水路など、様々な自然環境での探鳥を楽しめる公園です。今年もカラフルな鳥との出会いに期待します。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月10日(木)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅東口②番バス乗り場から、下笹目行き8:45発で「彩湖道満グリ

ーンパーク入口」下車。交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、松村、有馬、赤坂、新部、赤堀、馬場

見どころ：寒さ厳しい折、カンムリカイツブリ、カモ類も落ち着いているところです。ヨシガモも来ていますよ。今年もアリスイを見たいですね。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日（金・祝）

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。

または午前9時20分、市民の森入口前（土呂駅東口より徒歩約5分）。

担当：青木、工藤、藤原、浅見、有馬、松村、赤坂、阿久澤（廣）、阿久澤（キ）、金子、船木、山田（東）

見どころ：昨年はなんと42種も出現しています。それに2年続けてミヤマガラスが出ています。クイナにも期待しましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月12日（土）

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き9:10発バスで「滑川中学」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：入園料400円（子供80円）、65歳以上200円（要年齢を証明できるもの）。

担当：中村（豊）、藤掛、内藤、佐久間、岡安、大坂、青山、後藤、藤澤、宇野澤

見どころ：早春の雑木林ではカラ類の混群が元気に行き交っています。ルリビタキやミヤマホオジロなども探しながら陽だまりを歩きましょう。アフターは観梅もお勧め。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月13日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、倉崎、高橋（ふ）、後藤、藤田（裕）、栗原、飛田、新井（巖）、

千島、鶴飼

見どころ：冬枯れのこの時期は冬鳥の観察に最適です。そこかしこに鳥の気配を感じます。それに秩父の山並みをバックにタカ類が舞ってくれば言う事なしです。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月13日（日）

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋（優）、持丸、小林（ま）、水谷

見どころ：県南西部屈指の水鳥の集結地。今冬はカモ類が賑やかなようです。勿論カンムリカイツブリも元気に皆さんをお待ちしております。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月19日（土）

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き（畔吉経由）7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久沢（キ）、阿久沢（廣）立岩、永野（安）、山野、長谷川、野口（由）

見どころ：早朝に冬鳥を探します。今年もルリビタキやアリスイが出れば寒さも吹き飛びます。晴れていれば真白き富士の眺望とオオタカの飛翔を期待します。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月19日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月20日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

案内：①第300回の定例探鳥会（詳細は今月

の特集記事を参照)②お祝い会(さいたま市立浦和博物館館長の祝辞など)③懇親会(よかつたら昼食を持参ください。アルコール類は不可です)。

見どころ：冬鳥が勢揃い、田んぼの小道にはオオイヌノフグリなどの春を告げる草花、ロウバイの匂い。昔からの三室探鳥会の仲間とともに楽しい探鳥会を過ごしましょう。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月20日(日)

集合：午前9時20分「つきみ荘」北側。「つきみ荘」内には駐車できません。

交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王バス9:06発、伊勢崎行きで「坂東大橋南詰」下車。

担当：新井(巖)、倉崎、鶴飼、小池(一)、小池(順)、藤田(裕)、小淵

見どころ：砂利採取工事の影響でしょうか、12月のカモ類は100羽前後と少な目でしたが、ヨシガモは健在。国境(くにぎかい)の山々を眺めながら猛禽、冬の小鳥、水鳥を観察しましょう。

注意：仮設のトイレはありますが、駅などで済ませておきましょう。河原歩きです。足揃えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月26日(土)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、杉原、藤澤、山口

見どころ：旧ワイズレダリー跡地にホームセンターとスーパーが開業しました。飛来する野鳥たちへの影響はどうなのでしょう。冬鳥たちと春の息吹を探しながら、柳瀬川の土手を散策しましょう。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月26日(土)

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。



1月8日戸田市彩湖探鳥会

担当：新井(巖)、小池(一)、倉崎、藤田(裕)、大澤、小淵、鶴飼

見どころ：今季は冬鳥の到着が遅かったようです。嬉しい出会いを期待していつものコースを歩きます。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月27日(日)

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前。

集合後バスで現地へ。または午前9時、文化公園駐車場(国道16号側)。

交通：東武野田線大宮8:18発、または春日部8:18発大宮行きに乗車。

担当：長野、吉安、田中、石川、長嶋、榎本(建)、野村(弘)、小林(善)

見どころ：アオジやツグミなどはそろそろ北へ帰る準備を始めます。カモ類もそれぞれ。そんな変化を観察してみましょう。

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月27日(日)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス②番乗り場から鳩山ニュータウン行き8:53、9:04発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：千島、藤掛、岡安、志村、後藤、増尾、中村(豊)、増田

見どころ：静かな里山にカラ類、ルリビタキ、谷津でジョウビタキ、カシラダカ、ベニマシコなどを探しましょう。オオタカも飛んでくれるかもしれません。



行事報告

11月7日(日) 上尾市 丸山公園

参加: 47名 天気: 薄曇

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ
コガモ ハシビロガモ コジュケイ ハマシギ
キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス
エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムク
ドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (36種) (番外: ドバト) 冬鳥に会えるの
かと心配していたが、スタート場所にシメがでた。
流石に立冬だ、歩く間もなくツグミやジョウビタ
キ達に会えてホッとす。荒川の河川敷では川か
ら飛び上がったハマシギの群れ。この探鳥会では
初めて。36種も出たので良かった。(大坂幸男)

11月13日(土) さいたま市 田島ヶ原自然観察会

参加: 10名 天気: 薄曇

植物: 草本=オギ(花)、ヨシ(花)、チカラシバ
(実)、エノコログサ(花)、キンエノコロ(花)、
キツネノマゴ(花)、ユウガギク(花)、シロバナ
サクラタデ(実)、サクラタデ(花)、イヌタデ
(花)、セイタカアワダチソウ(花)、つる植物=
ノブドウ(実)、カナムグラ、シオデ(実)、木本
=ハンノキ(花)、クヌギ(実)、カラタチ(実)
植栽、鳥: カイツブリ、カワウ、アオサギ、オオ
バン、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビ
タキ、ツグミ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブ
トガラス (12種)、植生: オギ草原、ヨシ湿原、そ
の他: カヤネズミ(巢) 今回は「荒川下流低地
の自然史」の立場から田島ヶ原サクラソウ自生地
の環境変化を考えてみた。イネ科高径草本は地下
水位の高さにより、水中に生育するヨシ、砂質湿
性地のオギ、乾燥地のススキとそれぞれテリトリ
ーがある。田島ヶ原サクラソウ自生地は、本来の
サクラソウ自生地ヨシ湿原とは異なる。荒川下流
低地は、湖沼や湿原が続く沼沢地を中世以降、
徐々に耕地を拡大、近世中期に一面の田圃になっ

た。近代の荒川流路直線化と深堀化は洪水を抑え
ることを可能にした。サクラソウ自生地は近代の
河川改修の結果、地下水位より2~3mの高さに
あって乾燥化しサクラソウの存続が危ぶまされて
いる。このため彩湖北岸のヨシ湿原中にサクラソウ
実験地が設けられた。(小荷田行男)

11月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 43名 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ ハイ
タカ ハヤブサ キジバト アカゲラ コゲラ
ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウ
ビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種)
(番外: ガビチョウ) 土手に出ると秩父の峰々が
かすんで見えた。早速、足元のブッシュの枝先で
ジョウビタキがしきりに挨拶しながら出迎えてく
れた。ゴルフ場のあちらこちらの高木の梢に止ま
るツグミとシメが目立つ。かなりの数になってき
た。アカゲラの鳴き声が響き渡る森の中では小鳥
たちの忙しそうに行き交う混群が見られた。コハ
クチョウが見られなかったのが残念。(中里裕一)

11月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

新井浩、江浪功、海老原教子、大坂幸男、佐久間
博文、柴野耕一郎、志村佐治、武井暁嗣、増尾隆

11月21日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 48名 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ アオサギ マガモ コガ
モ ノスリ コジュケイ バン オオバン イカ
ルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマ
ガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラ
ダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ
スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハ
シブトガラス (36種) (番外: ガビチョウ) この季
節としては暖かかった。林内では、カラ類、ツグ
ミ、カシラダカ、ジョウビタキ等の冬鳥が盛んに
木の実をついばむ。都幾川では、バン、イカルチ
ドリが、また最終地点では、ベニマシコやオオバ

ンが出現し、楽しく探鳥会を終了。(後藤康夫)

11月21日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 25名 天気: 晴

ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ オオタカ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) (番外: ドバト) 常連のタヒバリ、ハク、セグロにキセキが出てセキレイ類4種が揃い踏み。飛来の遅れていたシメもようやく姿を見せてくれた。圧巻は青空をバックに舞うオオタカ。参加者の頭上を暫く旋回、見上げていたら首が痛くなった。小春日和の探鳥を楽しんでいただけたと思う。(石川敏男)

11月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 57名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ ハイタカ キジバン オオバン イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) (番外: ドバト) 絶好の日和で、ゆっくり探鳥予定だったが、休憩の時もいろいろな鳥が出現、ゆっくり出来なかった。ハイタカ、オオタカが悠然と飛ぶ大空の下、カワセミが芝川を行ったり来たり、久しぶりに参加した人がにこやかに語らって、三室探鳥会の原点を確認した。(楠見邦博)

11月23日(火、休) 本庄市 坂東大橋

参加: 13名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ チョウゲンボウ シロチドリ ハマシギ イソシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カワラヒワ ベニマシコ シ

メ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) (番外: ドバト) 出発してすぐにハイタカが出現。電線に止まるチョウゲンボウ、次々と飛び出すヒバリ、ホオジロを見ながら牧草地を進む。次第に風が強くなり、声だけのベニマシコやジョウビタキに欲求不満になりつつ河原へ。うずくまるハマシギの群れ、歩き回るシロチドリを観察して、対岸のカモを眺める。数は少ないが、マガモの中にヨシガモ、ヒドリガモ、オカヨシガモ、コガモを見つける。普通種でも1羽だけ見つけると希少種のように嬉しい。鳥合わせ中にノスリが出て1種追加。(新井 巖)

11月23日(火、休) さいたま市 見沼自然公園

参加: 16名 天気: 雨後曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ オオタカ キジバン オオバン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 歩き始めて直に小降りになり、そのうち青空も覗いて、まずまずの鳥見日和に。3日前の下見では少なかったツグミが、枯れ枝に鈴なり。小休止の見沼くらしっく館では、紅葉を愛で、囲炉裏端でお茶のサービスも。(浅見 徹)

11月27日(土) 志木市 柳瀬川

参加: 47名 天気: 晴

カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外: ドバト) 工場跡地にホームセンターとスーパーの建設工事が始まり、高橋付近から下流域にかけてカモ類がほとんどいないので高橋より下流には行かず、水谷田圃を廻った。種数は例年並みだが数は非常に少なかった。しかし終盤近くにオオタカが観察でき、盛り上がった。(持丸順彰)



● **工事予定に対する意見書提出**

群馬県西部県民局西部農業事務所から、「神流川をまたいで群馬県藤岡市と埼玉県神川村を結ぶサイホン(用水供給施設)が建設後 56 年経過して老朽化したので、管更生の工事を予定。意見を聞きたい」との 12 月 6 日付け文書が届きました。平成 23 年度に調査、平成 24 年度から工事開始、平成 26 年度完成予定とのこと。野鳥の会群馬と情報交換の上、「優れた自然環境を守るため、工事本体のみならず、工事中進入路の整備・通行などあらゆる面において悪い影響の出ないように、万全の配慮を求める。日本野鳥の会群馬が要望した「繁殖期での工事施工を控える。工事による汚れた水を流さない」を、当会も要望する」との意見書を 12 月 20 日付けで提出しました。

● **渡良瀬遊水地に関する新聞報道**

12 月 11 日(土)付け埼玉新聞によれば、「加須市の 12 月定例市議会に、渡良瀬遊水地をラムサール条約登録湿地にする請願が提出されたが、“周辺住民に説明する時間が必要”として継続審議になった。更に来年 3 月議会での請願採択を目指す。栃木県小山市はすでに 9 月定例議会で陳情を採択、栃木県栃木市、野木町、茨城県古河市、群馬県板倉町にも陳情が提出されている。国土交通省利根川上流河川事務所は、“治水事業に支障がなく地元が望むのであれば、湿地登録に賛成する”との立場を示している」とのこと。

● **普及活動**

12 月 11 日(土)坂戸市環境学館いずみ主催バードウォッチングウオーキング講座が入西こはるが池と高麗川沿いのコースで開催

され、増尾隆・坂口稔が指導しました。

12 月 18 日(土)越谷市教育委員会・NPO 法人越谷市郷土研究会共催の越谷保存民家・大間野町旧中村家住宅周辺の探鳥会を、野村修己・大塚操・吉岡明雄・新井良夫が指導しました。

● **ごめんなさいコーナー**

前月号に記載した 12 月 1 日現在の会員数「2,043 人」は「2,034 人」の誤記でした。

● **会員数は**

1 月 1 日現在 2,034 人、12 月 1 日と同じ。

活動と予定

12 月 11 日(土) 1 月号校正(海老原美夫・大坂幸男・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。

12 月 19 日(日) 役員会(司会：藤掛保司、各部の報告・工事に対する意見書・三室探鳥会 300 回記念準備・その他)。

12 月 20 日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け 1 月号を発送(倉林宗太郎)。

● **2 月の予定**

- 2 月 5 日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 2 月 12 日(土) 3 月号校正(午後 4 時から)。
- 2 月 19 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。
- 2 月 20 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

上越市の朝日池へ探鳥に行ってきた。池周辺の田んぼで 38 羽のハクガンを堪能。更には池上空でオジロワシがカモを追いまわし、ついには飛び立ったマガモを水面上 2~3 m でゲット、それをぶら下げて対岸の木にとまっている姿などをじっくりと観察できた。前夜の鳥情報と天気予報は最悪だったが、両方とも外れるという運の良さだった(山口)。

しらこぼと 2011 年 2 月号(第 322 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社